



楽しめ 楽しめ

大橋 歩

大橋 歩

イラストレーター。一九四〇年三重県生まれ。多摩美術大学油絵科卒業。『平凡パンチ』創刊から七年間、表紙のイラストレーションを担当し、脚光をあびる。その後、各種雑誌、広告等で幅広く活躍。エッセイストとしてもファンが多い。

著書

『おしゃれの絵本』『トマトジュース』『くらしは楽しみ』（講談社）、『神様におねがい』『あなたに会いたい』『うれしい気分になりたい』『鉛筆の先ちょよ』（大和書房）、『いろいろないろ』『おいしいおいしい』『ときどき着物』『着物は楽しい』（文化出版局）、『ふつうのうれしい』『くらしの一日一日』（マガジンハウス）他多数

楽しみ楽しみ

一九九六年一〇月三〇日 第一刷発行

著者——大橋 歩

発行者——大和謙二

発行所——大和書房

東京都文京区関口一―三三―四

電話〇三(三三〇三)四五一一

振替〇〇一六〇―九六四―二七

印刷所——暁印刷

製本所——小泉製本

©1996 Ayumi Ohashi Printed in Japan

ISBN4-79-77018-6

乱丁本落丁本はお取替します

楽しみ楽しみ
目次

季節の楽しみ

- 日本のお正月には神様がおいでになる 6
- 今年も花見に行こうと思う 11
- 食べものは大事です 16
- 体があつての私だなあと近頃体について思ったこと 20
- 年をとるということ 25
- けんやくにゆれる気持 30
- 着るものですてきになる 35
- ちゃんとちゃんとせねばならない日は着物にきめた 40
- 美容について 45
- お金持ちじゃない私がお金持ちと普通の人を考えたパリ 50
- 家族のいる幸せが今の私にはすばらしい 55
- 生きものを飼う 60

日常の楽しみ

ふりかえって見ると 66

どなるが勝ちなの？ ドナルド父さん！ 71

いwnなきやいけない立場の人がいうことの大事 76

役に立ったり助けることをするのは正しいことなんだけど 81

ちよつとどいてどいて、買wnなきやいけなかつたもの忘れてしまったじやないの 86

ミーハーおばさんの新聞の読み方 91

常識とは、健全な社会人の持つごく普通の知識と判断力、なんですって 96

人生は山あり谷あり、いばらの道もあるとしても 100

どうあるかは個々のこと。そして私共は私共であつたなあ 105

友達が大事になつてきた年頃 110

この年になると友達は女に限ると思う 115

古マンションをリフォームして快適に住む時代と思つたので 120

あとがき 125

装丁・本文レイアウト／野村高志＋KACHIDOKI

季節の楽しみ



日本のお正月には神様がおいでになる

昔

は、お正月がくると誰でも年をひとつとったのです。12月31日がお誕生日の人、1月1日がお誕生日の人、7月7日がお誕生日の人、1月1日にひとつ年をとることになっていたので、そして生れるとすぐに一歳になったから、12月31日生れの人、翌日の1月1日に二歳になったのです。でもまあそれではいくらなんでもかわいそうなので、1月すぎに生れたことにして届け出る人も多かったのです。お正月に年をとる年の数え方を、数え年といいます。

お正月は神様をお迎えするお祭りです。日本では何事もお正月から始まりました。神様をお迎えして、長命、繁盛、豊作を願いました。お正月の門松は、神様が降りてこられる目印で、しめ飾りの裏白は長命、ゆずり葉は、

家系をゆずっていける願い、橙は代々繁盛を意味しているのだそうです。

マンションやアパート住いの都会では、松に白い紙を巻いたものや輪飾りのような略式を目にします。お正月の飾りは地方で風習が違ふようですので、その範囲の中で飾り方を工夫なさるのもいいようです。

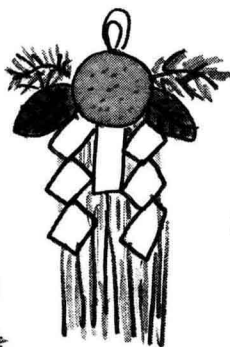
さ

てお家の中の飾りものの鏡餅は、神様へのおそなえです。それからお正月のお花は、おめでたい花である松竹梅、それから福寿草、千両、水仙や柳を飾るのがよいとされています。家の前や家の中をお正月らしく飾ると、なにかしら新年を迎えるというあらたまった気持ちになるから不思議ですね。

お正月はおせち料理を食べることになっています。三が日分のお重につめた料理は、台

東京の略式飾りのもの。

出来ただけシンボルがよいし、しきたりを知らない私は思う。



花は普段と同じように、一種類をどざり花瓶にさす。

木や花木は切りが痛々しいのでガラスの花瓶にはささない方がよいと友人はいう。



うちのお正月用の食器

赤絵のとり皿



赤絵の鉢(大・小)



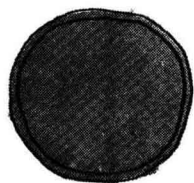
大ボリの碗



赤絵の蓋つき碗



32センチのうしろ塗り皿



上どあそりの18センチの皿



和紙では入れもつくる。



黒塗りの膳。

白磁のどろりに
水ひきを結んで、
お酒を入れる。



昔はお正月にはお餅を
焼いてもちを
おやつにした。



というわけ、うちのお元日。

息子達と私の母と
私の夫と私とろって
おめでとう。

年をと。たせいでしょう。
お正月が大事に思えて
きました。
今年も無事であります
ように。



所に立つ女性の休養の意味もあつたらしいのですが、近頃の子供や若い人には、あまり評判がよくありません。チン（電子レンジ）におまかせのレトルト食品なども多い現代では、お正月の食べものの内容はかなり違つてきているように思います。でも、一応はじめというかしきたりというか、日本人だからお正月はおせちをとるので、コンビニまで出来あいを売り出しています。そんなにまでして食べなくつちやいけないのかしら？ と疑問に思う私は、しょうがないね、と叱られる世代です。私がその世代ですから、もうほとんどお正月の料理づくりから足を洗っている人も多いような気がします。

一通りお正月の祝膳を書き出しますと、お屠蘇でしょ、お雑煮でしょ。男は朱塗りの膳で女は黒塗りの膳なのです。いつだったか誰だったかに教えてもらったことですが、朱塗りは黒塗りのよりずーっとずーっと手がかかるのだそうです。それで男は朱塗りのもの

を使うことになつてゐるんです。何なのよ！ と今の私は平気なのです。朱の方が私らしいので、うちでは私が朱塗りを使つていますが。そしておせちのお重となります。

お

正月には新しい下着を用意するという家もあります。子供時代、お正月には一張羅いつぱやうらを着させてもらえた世代の私ですが、今は普通の日にすきやきやおさしみを食べている生活ですから、昔という一張羅や新調の服は普通の外出着。新しい着物を買えない年は、仕立てなおしの着物を、お元日にしつけをとつて着たというような話、美しいとは思いますが、現実的ではありません。でもよく考えてみると、日本の昔の人達の生活はけじめがあつてよかつたのではないでしようか。

もういくつ寝るとお正月と、楽しみに待ったお正月だったけど、この年になるとまた来たのかなんて思つたりして、いけませんねえ。来年からはもつとお正月らしさを楽しんでみようかなと思つています。



いよいよ
桜の季節

今年も花見に行こうと思えう

う

ちの近くの公園にも春がくると、枯木に芽が出てきてふくらんで、やがて花が咲く。こぶしの花の次は桜の花なのです。

桜が咲くとああ、本当の春になったなあと、なんとなく心ウキウキします。それでお弁当をつくって花見に行きます。昼間は子供連れの人も多いので、大人は夜ときめて、うちは夜桜見。

何年も前の花見は、寒くて寒くて。羽毛のジャケット着ても、毛布を巻いてもブルブルブル。体をお酒であたためるつもりでガブ飲みした夫は、逆に冷酒で体を冷してしまい、ほうほうの体で家にもどって、体を温めたのですが、冷酒がさいてきすぎて悪酔いしましたっけ。

花見の時期はわりあい雨も多く風も強く、

あれよあれよ、という間に散ってしまう年もありました。

それでも桜が咲くと、待っていましたとばかりにほんとうにあちらこちらから桜見に人が出ます。うちの近くの公園も、年々人が増えているのです。お昼時に、ビニール袋を手にしたサラリーマン達が公園めぐしてぞろぞろ歩いているのに出会うけど、短い昼休みにも花見だなんて、なんだかはほえましい。

日

本人には桜の花は特別なのです。近頃それをよく思えるようになりました。

若い時は桜は嫌いでしたから。あの派手さがまんならなかったのだ。くるったように咲くといわれるのは桜の花のことで、夜目にもあでやかで、おどろおどろしくもある。と私は思う。でも、年をとったせいかな、おど

お花見の弁当。花にはだんごです。

うちでは入れ子の箱を
弁当用に使えます。帰りが
楽ですから、

メニュー
おにぎり、焼き魚、
ちくせん煮、アスパラの
ゴマあえ、つけもの。
やはり和食に限る
と思います。



弁当を運ぶかご。
魚屋さんの買い出しかごが
一番便利。中のもも安定し
ますからね。

桜もち

桜の葉は
塩づけにしたのが好き。
葉も食べるから。



桜の帯をしめて観劇

4月の歌舞伎観劇のために
買った帯で、お納めは友人に
イヤイヤ銀座に行くのです。



花見のマナー①

少々のは目はつぶりましょ。
後始末だけはきちんとすればね。



花見のマナー②

近頃キスが欧米以上に氾濫。
花の下ではしないので、花を見に
きた人に失礼よ。



ろおどろしさも受け入れられるようになりました。

それで桜の花の帯をしめて、四月に歌舞伎座にも行くのです。公園の桜は散ってしまっ
ていても舞台の桜はまっさかり。四月中は桜
が楽しめます。

日本でいいですね。塩づけの桜の葉ごと
食べる桜もちを食べながらも、外国にこんな
文化あるのかしら？ と思います。

お菓子の形を例にとっても季節の花が多い
のですよ。あじさいやら菊やらつばきやら。
季節を食べものでも楽しむ。日本人の感覚つ
てすごいいと思います。

そういうながらも近くのケーキ屋の店先に、
卵の形をしたイースター用のお菓子が並び始
めると、なにやらよそ文化にもわくわくして
しまうのですが。

実際の生活は、コンクリートの箱の家の中
で、洋式の家具や電化家庭用品に囲まれてい
ますもの。頭の中で日本の自然をとり入れた

文化を理解してても和式生活はしていません
もの。

桜

の花は赤茶のがくを残して散ります。
決して美しくはありませんが、桜の花

が散ると、私の家の近くの公園の木々は、そ
れぞれに芽ぶきをします。うす茶の芽がふく
らんだのはうす茶に染まり、ほんのちよつと
緑を帯びた芽は、うっすら黄緑に染まります。
枯木がそれぞれにふんわり色気を帯びるので
す。その色気も一日一日と変化していき、や
がてどの木々も緑色の葉の色になってしまう。
すると暖かさも安定します。

四月には四季のはつきりしている国に住ん
でてよかったと、思います。